

22年度前期生徒会役員決まる！

4月30日（金）に生徒総会があり、生徒会予算の21年度決算と22年後予算案が承認され、その後の立会演説会を経て、前期生徒会役員が信任されました。

会長の白井瞭くん（2年2組）、副会長の横山裕也くん（2年1組）、角田遙さん（2年1組）の立候補の演説を聞き、いずれも自分の考えをきちんと述べて、学校の課題や青高生として守っていくべき事柄を認識している内容であると感じました。

「当たり前のことを当たり前でできる青高にしていく」「これまでの青高のよさの自由を守るためには責任が伴うこと」などを全校生徒の前で主張しました。生徒会として何を目指していくのかを明確にしているので、今後が楽しみです。こうした役員を選んだ生徒諸君はしっかり支えていくことが重要だと思います。

こうした中で、今年度の委員会活動が活発に行われています。保健委員会では、今年度から総務係を設置して校内美化を推進しています。特に生徒昇降口の整理整頓を掲げ、下駄箱の上の整理をしています。放送等で注意喚起したうえで月曜日の放課後には撤去し、水曜日までに所有者に返却しています。こうした継続的な取組で校内がきれいになり、皆が気持ちよく学校生活を送ることができることを望みます。

学校としても、運動部の生徒用に下駄箱を整備していくよう計画しているところです。

「守(しゅ)・破(は)・離(り)」に学ぶ

剣道など武道で使われている言葉だそうです。恥ずかしいことですが、私には、まったく初めて聞く言葉でした。実はこの言葉は授業参観をしていて、先生が生徒に話しているのを聞き、知ったのです。そこで、少し調べてみました。

一般的には、「守」は師についてその流儀を習い、その流儀を守って励むこと、「破」は師の流儀を究めた後に他流をも研究すること、「離」は自己の研究を集大成し、独自の境地を拓いて一流を編み出すことと説明しています。

(武道論十五講参照)

これは人生の教えにも通ずるとしてはいますが、私なりに解釈すると、何事をなすにも基礎基本が大切であり、まず先生や親、指導者の教えをよく守ることが第一段階(守)。そして、

その上に立って、他の考え方や理論、意見を学び研究することが第二段階(破)。そして、そこから自分にとって何が重要であるかを見極め、自分らしさ、自分自身を確立していくのが第三段階(離)。このように考えてみましたが、どうでしょうか。人間の生き方として、究めるとは、このような段階を経て到達するものなのでしょう。人生の長い期間をそうした三段階に分けることもできるでしょうが、たとえば高校生活の三年間をこの時期に振り分けることも可能だと思うのです。長い人生では、高校生はまだ「守」の時期かもしれませんが、高校1年生段階は「守」で、しっかりと学習や生活などの基礎基本を身に付ける。高校2年生段階は「破」で、1年生の基礎にたつて、いろいろな知識をどんどん吸収していく。高校3年生段階は「離」で、2年生までの経験を踏まえ、自分の究める学問を見出しそれに向かい邁進する(大学選択・決定)。このようにも考えられるのではないかと思います。

君たちはなぜ学ぶのか

これも授業参観での一コマ。1年の現代社会で、「新聞の投書『悩みのレッスン』」を読み、あなたが回答者だったらどう回答するか」という課題がありました。「進学校に通う高校生が勉強は役に立つのか」という悩み対して、青高の1年生は、次のように回答しています。いくつか紹介します。

○勉強は大切だと思います。なぜなら勉強すれば未来への選択肢が増えるからです。勉強はいつか自分の人生を大きくしてくれると思うので、できる時にやっておいた方がいいと思います。

○今私たちがしている勉強がそのまま将来に結び付くとは限りません。けれど、そこから物事に対する姿勢やとらえ方など社会で生きていくための基礎を学んでいるのだと思います。…単なる暗記をする、解けるようにするのではなく、「自分を創り出す」ことなんだと思います。

○学ぶこと自体に大きな意味があるのです。私は最近ニュースでこんな話を聞きました。80歳のおばあさんが大学に通っていて、学校生活を送っていると。人は生涯学び続けるのだと思います。学ぶことに意味があるのです。私は毎日学んでいます。人生を豊かにするために人は学ぶのだと思います。歳をとり学んでおけばよかったと後悔しないように学びたいです。学ぶとは一種の青春ともいえると思います。



私はこの授業を参観し、青高生の素晴らしさをまた一つ見付けた思いです。